

大豆種子生産における耐性菌管理に有効な紫斑病防除体系

【1 成果の概要】

- (1) マンゼブ水和剤（商品名：ジマンダイセン水和剤）は耐性菌発生リスクが低く、総合的な耐性菌管理に有効な薬剤です。
- (2) 本剤のダイズ紫斑病に対する効果的な散布時期は開花期の25～35日後頃であり（図1）、開花期の25日後頃に1回目散布、その10日後に2回目散布とするとアゾキシストロビン水和剤（商品名：アミスター20フロアブル）散布と同等以上の高い防除効果が得られます（図2）。
- (3) 上記を踏まえ、現在、種子生産で推奨する防除体系は図3の通りです。

散布時期の イメージ	7月下旬	8月上旬		8月 中旬		8月下旬		9月上旬		9月中旬
	開花期	+5	+10	+15	+20	+25	+30	+35	+40	+45

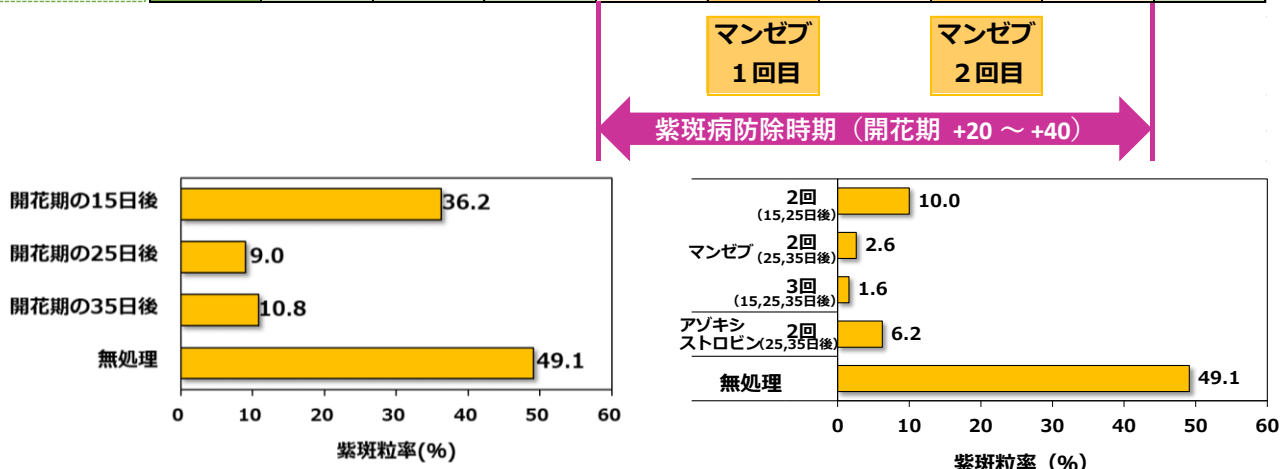


図1 マンゼブ水和剤の散布時期と紫斑粒率の関係

図2 マンゼブ水和剤の散布回数と紫斑粒率の関係

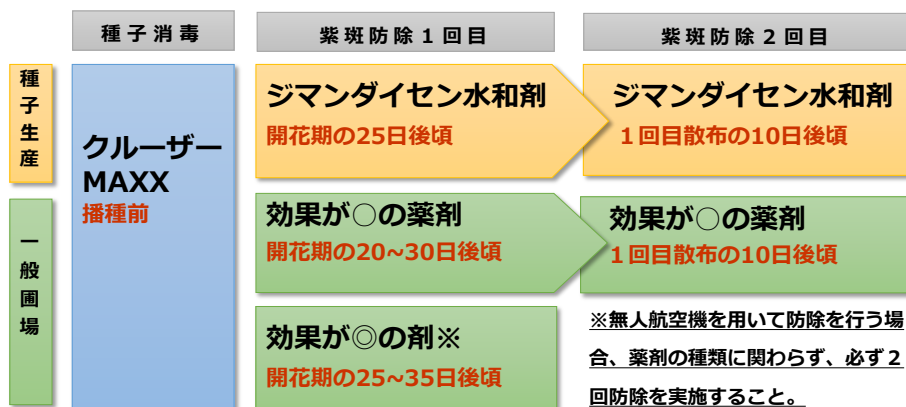


図3 種子生産および一般ほ場における防除体系

表1 各薬剤の紫斑病に対する防除効果

薬剤名	倍率	効果
ジマンダイセン水和剤	400	○
Zボルドー	500	○
ベルコートフロアブル	1,000	○
トライフロアブル	1,000	○
プロボーズ顆粒水和剤	1,000	○
ニマイバー水和剤	1,000	◎
アミスター20フロアブル	2,000～3,000	◎
ファンタジスタフロアブル	1,000	◎
ブランドム乳剤25	3,000～5,000	◎

◎：効果が優れる ○：有効

【2 留意事項】

- (1) 本剤は、使用時期が「収穫45日前まで」となっているので、収穫時期に注意してください。
- (2) 紫斑病に効果のある薬剤は、表1の通りです。
- (3) 種子生産では、一般ほ場での耐性菌密度を低減させるため、QoI剤やDMI剤等の耐性菌発生リスクが高い薬剤は使用しないでください。
- (4) 本技術は一般ほ場でも活用可能です。